

みんなで未来を つくっていきたい！ 大熊 庄吉さん

大熊庄吉さんは、6年前に定年退職。その後は地域でさまざまな活動を積極的にされています。

朝のハイタッチ

4年前から、小学生の登下校時の見守り隊に参加しています。見守り隊とは、登下校時の子どもたちに挨拶、声かけなどを行うとともに、地域と子どもたちの安全を守る取り組みです。この活動を、雨の日も、雪の日も欠かさず続けています。仕事をしている時は、地域の子どもと接する機会があまりなかったので、どのような関わり方をすればよいのか、最初は戸惑いもありました。でも、4年間続けたことで慣れ、今では私の活力となっています。

子どもたちとは、言葉でのあいさつはもちろんですが、ハイタッチも大切なコミュニケーションです。子どもたちと接することはとても楽しく、子どもたちからたくさん笑顔をもらっています。

きっかけは、区役所

30数年間、がむしゃらに営業の仕事をしていましたので、それまでは地域の活動に参加したことになれば、全く知識もありませんでした。ただ、退職すると時間が空き、仕事以外に熱中できるものを見つけたいと思いました。とにかく一歩を踏み出してみようと思い、最初に行ったのが区役所です。そこで、ボランティアセンターを紹介してもらいました。

ボランティアセンターでさまざまなパンフレットを見て、パソコンが若干できたので、藤棚ケアプラザを中心に活動している「eネットにし探検隊」という活動を紹介してもらいました。そこは地域の良いところを探検し、ITを活用して地域にアピールするボランティア団体です。私自身も参加して地域を探検して、色々な発見をしました。また、こんな活動が地域にあったのか、というのも驚きました。そこから、町内会活動に誘われたりと、活動の幅が広がっていきました。

地域活動をはじめて

地域の活動は全く初めてでしたので、最初は戸惑いがありました。しかし、活動を続けていくことで、活動の幅も広がり、今は多くの活動に関わっています。

主には、西区災害ボランティアネットワーク、中学校の防災拠点の運営役員、小学校の見守り隊、町内会などで活動をしています。「ベイバイク」というコミュニティーサイクルにも参加しています。始めたころは、地域に知り合いもいませんでしたが、そうした活動の定例会などに出席するうちに徐々に人の輪もできました。

見守り隊の活動で今では子どもたちとはすっかり顔なじみとなっているので、町内で子どもたちと会ったときにも声をかけてくれます。これが、嬉しい。地域の子どもたちとのつながりから、喜びを感じることができます。

見守り隊は、大人にも同様に声かけします。さわやかに挨拶をしてくれる方が多いですが、中には挨拶をしても、返してくれない大人もいます。そのときは、少し寂しい気持ちになりますが、道行く人に、一人ひとり、丁寧に声をかけるようにしています。私も、地域の活動を始める前は、挨拶をされても、むすっとしていたように思います。でも、地域に出たことで、多くの人と顔なじみになり、自分から挨拶をしたいという気持ちが強くなっていきました。地域に出て、いろんな人に出会ったことで、徐々に自分自身も変化してきました。

現在、防災拠点運営委員会の班長をやっています。どうやってまとめていくのかということや、周りの班とどのようにやっていくのか、という調整は難しいですが、仲間と協力し、前向きに活動しています。

仕事を地域での活動に活かしていきたい

今、町内会のホームページを管理しています。パソコンで町内会の集会所の予約を取れるようにしたり、システム管理をしたりということをやっています。もっと多くの人にホームページを見てもらいたいという思いで携わっています。

発信する側は、どうしても一方的になりがちなので、今後は流すだけでなく、情報を受け取る人とコミュニケーションを大切にしていきたいと考えています。

地域は、会社とは異なる場所です。だけど、30数年間ずっと仕事をしてきたことで活かせる場があると思っています。勤めていたころ、職場のコンピュータの開発部門にいたことがあります。その経験を活かし、地域でWordやExcelを教える活動をしています。これからも、もっと他にもできることがあると思っているので形を変えて、自分のできることを地域でやっていきたいです。



＜平沼小学校見守り隊＞



＜岡野2丁目町内会さわやか清掃＞

仲間づくりも自然体で

活動をしている中で、私の活動に興味を持ち、一緒に活動している仲間がいます。「どのように仲間をつくっているのですか。」と聞かれることがあります、特に目立った広報活動などを行っていません。担い手を増やしていくことは大切だけど、引っ張り込んでやらせたくないという気持ちがあります。

普段の活動の話を知人になると、「やってみたい！」と、言ってくれる人がいます。あくまで普通に、自然体で接するということを大切にしています。それが、あまり構えずに、参加への一歩を踏み出しやすくすることにつながっているのかもしれません。

また、コミュニティサイクルの活動を初めて、20歳前後の若い世代の人達と接する機会も多くなりました。最初は、どうすればよいのかと身構えていましたが、今では孫のような存在となっています。難しく考える必要はなく、一番大切なのは、自然体で接することだと、活動をする上で学びました。私は、普通のことしかやっていませんが、自然体であったからこそ、彼らと打ち解けられたのかなと思っています。

思い立ったら、すぐ実践

地域でさまざまな活動を始め、前に進むことの楽しさを覚えました。一歩踏み出すことで、人や知らないものとの出逢いがあります。私も、一歩踏み出したあと、地域の活動をしている人から、「遊びに来てみてください。」と言われ、活動が広がっていきました。そのような出逢いと同様に、想像していなかったものとの出逢いもあり、日々新しい気持ちで活動しています。

何事も、動いてみる、という気持ちが大切だなと思っています。6年前の私のように、何か始めたいけれど迷っているという人には、「思い立ったら、すぐ実践」という言葉が伝えられたらいいなと思います。やってみて、合わなかつたらやめることができるのも地域活動の特色でもあります。だから、その人の想いを大切にできたらよいなと思います。



＜防災拠点運営委員会の様子＞



＜ボランティア eネットにし探検隊 パソコン教室の風景＞

今後はスペイン語にも挑戦したいと思っています。学生時代、授業でスペイン語を習っていましたが、以前から外国人と接して何かしてみたいという夢を持っていました。地域で活動したことで、挑戦するおもしろみを感じました。もう一度、勉強したいという、この思い立ったものをすぐに実践し、想いを形にしていけるよう頑張りたいと思います。

みんなで未来を創っていきたい

自治会町内会の担い手の年齢は、年々上がっています。これからは、次の世代の力も必要で、若者に地域を盛り上げて行ってほしい。次世代に、次につながるような後押しができたら良いなと思っています。

そのために、若い人がかかわりやすい環境をつくりたい。若者の担い手を見つけるためには、こちらも若者を知らないてはならないという気持ちもあります。何かを教えるだけではなく、こちらから若者を知る働きかけをしていきたい。若者はどういうことに関心があるのか、若者はどのようなことができるのかということが、見えてくる気がします。そして、同時に町内会についても勉強し、どのように若者たちと共に盛り上げていくかを考え、みんなで未来を創っていきたいと考えています。



<baybike 活動風景>

編集後記 何かをしたいと思い、区役所でボランティアセンターを紹介されて、ボランティアセンターに足を向けられた大熊さん。とても積極的な方だなと思いました。御自分の得意分野を活かしつつ、活動の幅をどんどん広げられている様子をお聞きして、本当に感心するばかりでした。子供たちにとって、ハイタッチのできる大人はとても大切な存在だと思います。これからも頑張ってください！！

◆団体概要

平沼小学校見守り隊

平沼小学校の安全管理活動支援を行う。児童生徒の登下校時における、見守りボランティア活動を通して、児童の安全確保を図っている。